

# 現代の中東

第32号

2002年1月

## 目次

巻頭言 10年の今昔……………池田明史	
<hr/>	
エジプトにおける民営化インセンティブの変化……………土屋一樹	2
イブラヒーム事件とエジプト政治	
—1990年代の民主化再考—……………伊能武次	16
“ジュムルーキーヤ”への道(2)	
—バッシュール・アル=アサドによる絶対的指導性の顕現—……………青山弘之	35
サウジアラビアにおける王権とイスラーム	
—ワッハーブ派国家から石油王政へ—……………福田安志	66
<hr/>	
〈現地報告〉	
イスタンブルにおけるアレヴィーのデルネッキ……………斎藤完	79
	(解題：佐島隆)
<hr/>	
資料紹介……………	90
<hr/>	
『現代の中東』総目次 第1号～第30号(1986年9月～2001年1月)…	95

● 1月14日のアフガニスタン東部ザワル・キリ近郊に対する米軍の攻撃を最後に、米軍の本格的爆撃は行われておらず、米軍のアフガニスタン爆撃は事実上終了したとの見方が広がっている。しかし、オサーマ・ビン・ラーディンの行方は分からず、ターリバーンやアル・カーイダの指導部の多くも所在不明のままであり、米軍の活動が一応の終結を見るまでにはしばらく時間がかかるものと思われる。東京では復興へ向けた国際会議が開催され、ターリバーン後の模索が続いている。アフガニスタンの再生へ向けた動きはこれからが正念場であろう。

同時多発テロが起こる前に編集企画された本号には、同時多発テロやアフガニスタン関係の論文は掲載されていない。代わって、アジ研の中東グループが中心になり、『テロと戦争がもたらしたもの—中東からアフガニスタン、東南アジアへ—』(酒井啓子編、トピック・レポートNo.45)をとりまとめた。近々刊行される予定であるが、関心のある方には一読をお勧めしたい。

(福田)

● 昨年9月の同時テロ以降、世界が騒然とし続けています。惨事の犠牲者を悼み、報復戦争に苦しむ市井の人々に救いの手を、という善意の声には異論の余地もありません。同時に「真実は何か?」「私たちがいますべきことは何か?」という問いが、つねに残され、つきつけられています。悲嘆を免罪符としてはならないことを思いつつ。  
(岩崎)

現代の中東 No.32

2002年1月15日発行© 定価1365円  
(本体1300円)

編集・発行 日本貿易振興会アジア経済研究所  
編 集 地域研究第2部  
発 行 研究支援部

千葉県千葉市美浜区若葉3丁目2番2 〒261-8545  
電話043-299-9735 FAX043-299-9736

本誌に掲載されている論文などの内容や意見は、外部からの投稿を含め、執筆者個人に属し、日本貿易振興会あるいはアジア経済研究所の公式見解を示すものではありません。